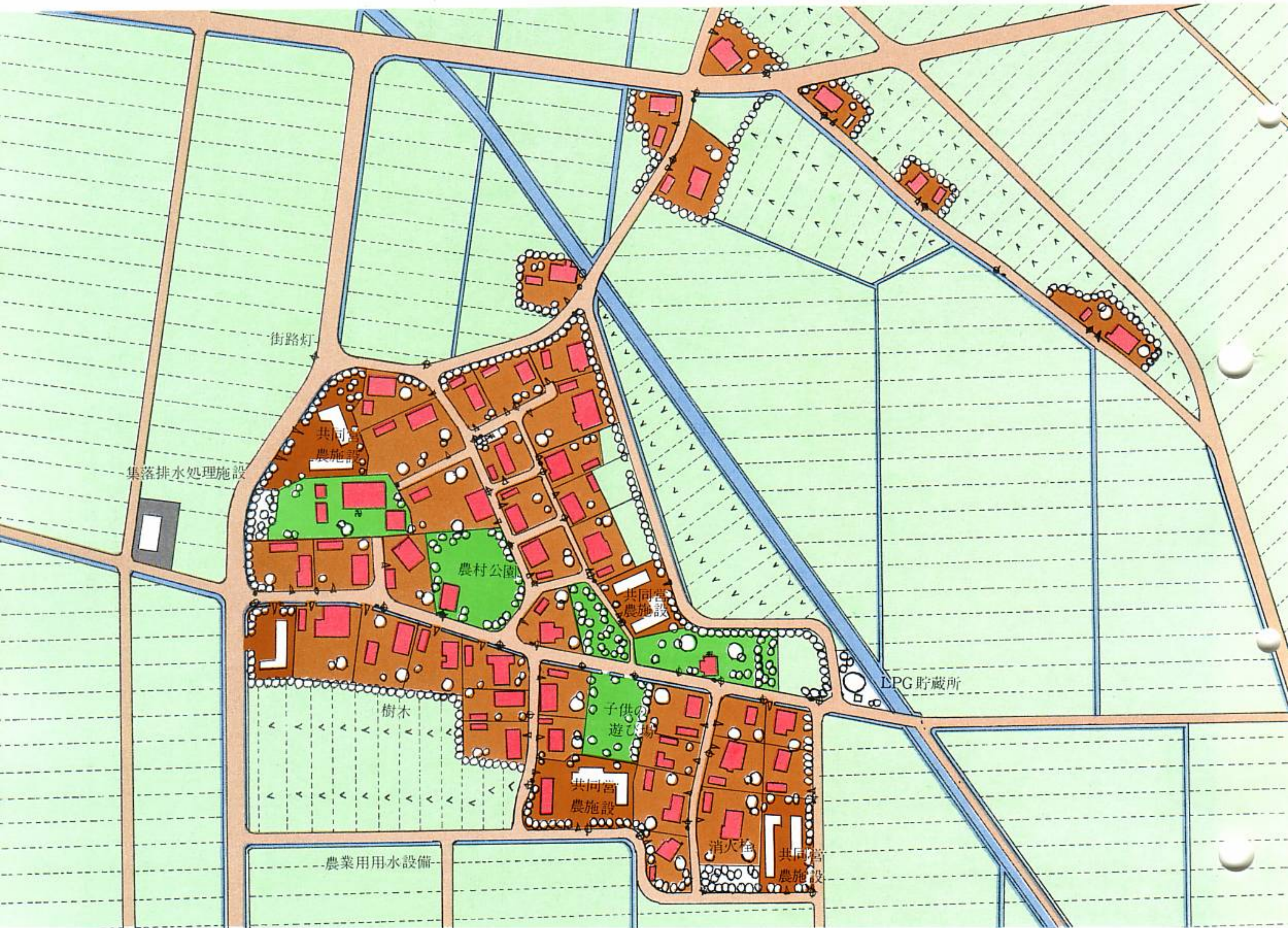


東由利町報

号 外 昭和53年8月10日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



農村総合整備計画……概念図



明日に創造を

町長 小松 栄 男

麗しい自然に恵まれた東由利、ここで生まれ育った誰しも、この郷土を愛せぬものがあるうか。しかし、かつて一万の人口が六千五百に減少したのは、生活の問題であります。

「美しい環境で豊かな生活」は万人の願いであり、政治、行政の課題であります。行政の成果に速効を求めるのは、このあわただしい社会では、やむを得ないかもしれませんが、根本的解決にはなりません。一步一步の施策の積み上げが町の発展になると考えます。

現在における本町の農業の基本施策として、圃場整備、農業構造改善、農村環境整備と一連の事業を実施していますが、本町には農業以外の産業も発展、成長しつつあります。農業を根幹として商工業振興との関連の中で、町勢の発展を考えなければなりません。今町は「農村総合整備計画」を作業中であります。これは町のマスタープラン（基本となる計画）であると同時に、昭和五十五年実施予定の「農村総合整備モデル事業」の基本計画でもあります。先般、みなさまにお願いしました「意向調査」のご意見をもとに計画を策定するのでありますが、この度、その結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

町の将来についてみなさまと共に考え、活力ある東由利を創造するため、共に最善を尽くしたいと考える次第であります。

号 外

農村総合整備
特集号

8 / 10

生活環境を総合的に整備



(着々すすむ圃場整備)

「意向調査まとまる」

自然と生産活動と生活が一体となった、美しい農村を作りあげること、これをねらいとした、農村総合整備事業が五月に国土庁の指定を受けスタートしました。

今年、昭和五十四年から昭和六十二年までのおおむね一〇年間をみたおとした、農村総合整備計画書を作るものであり、町の実情にあった農村の将来像を描き、実現の可能な計画をうちたてるため、調査と検討を重ねておるところです。

計画には、町に住むみなさんの意見を十分に反映することが大切であり、そのひとつとして六月に実施した「意向調査」の結果がまとまりましたのでお知らせします。これから、みなさんから積極的な提言とご協力をお願いします。

快適な生活条件の確保を

「農村は農業者だけではなく、農村に住むすべての人々のために、さらに農村を訪れる人々のために整備されねばならない」とは、西ドイツのプラント前首相のべたことばです。

私たちの農村も、社会のため農村がどのような役割を果たしているか、そして、そのような役割を果たすことができるように整備され、ここに住みこころで期待

される役割を担う人達が、いきいきとして快適な生活を営むようにすることが課題であり、目標でなければなりません。また農村は、公害はなく緑にも恵まれています。都市に比べて特に生活環境面での整備が遅れており、この格差をなくし、住みよく美しい農村を作ることが必要となっています。

農村総合整備事業はこのように、農業生産と農村の生活環境をともに整備し、若い人達も喜んで定着できるような農村、ほかの市町村のモデルとなるような農村を作りあげることが目標としております。

今年度は、国土庁に提出する「農村総合整備計画書」を作る

来年度十三億円モデル事業を計画

農村総合整備計画は「農村総合整備モデル事業」のマスタープランとしての性格があり、「モデル事業」は、農村総合整備計画に即して実施されます。つ

ことになりませんが、これは町に住むみなさんの意見を十分に反映し、私たちの町にふさわしい独自の、理想的な農村を描きだしていこうとするものです。

計画書の内容は、「農村の現状と問題点」「農村総合整備の構想」「整備計画」の三つに分けられます。「農村の現状と問題点」においては、どのような地域課題をかかえているかを、産業、人口、地理、生活などの角度から調査、分析、意向のくみあげを行います。「農村総合整備の構想」では、前述の問題点をふまえ、むらづくりの基本理念となる農村の将来像、産業振興、生活環境整備、社会組織と地域運営の各構想が組み立てられます。その構想を具体化するために「整備計画」があり、集落、道路、飲雑用水、排水、土地基盤、産業施設、商工業施設などと、おおむね一〇年間で整備する指針となる構想計画が描かれます。

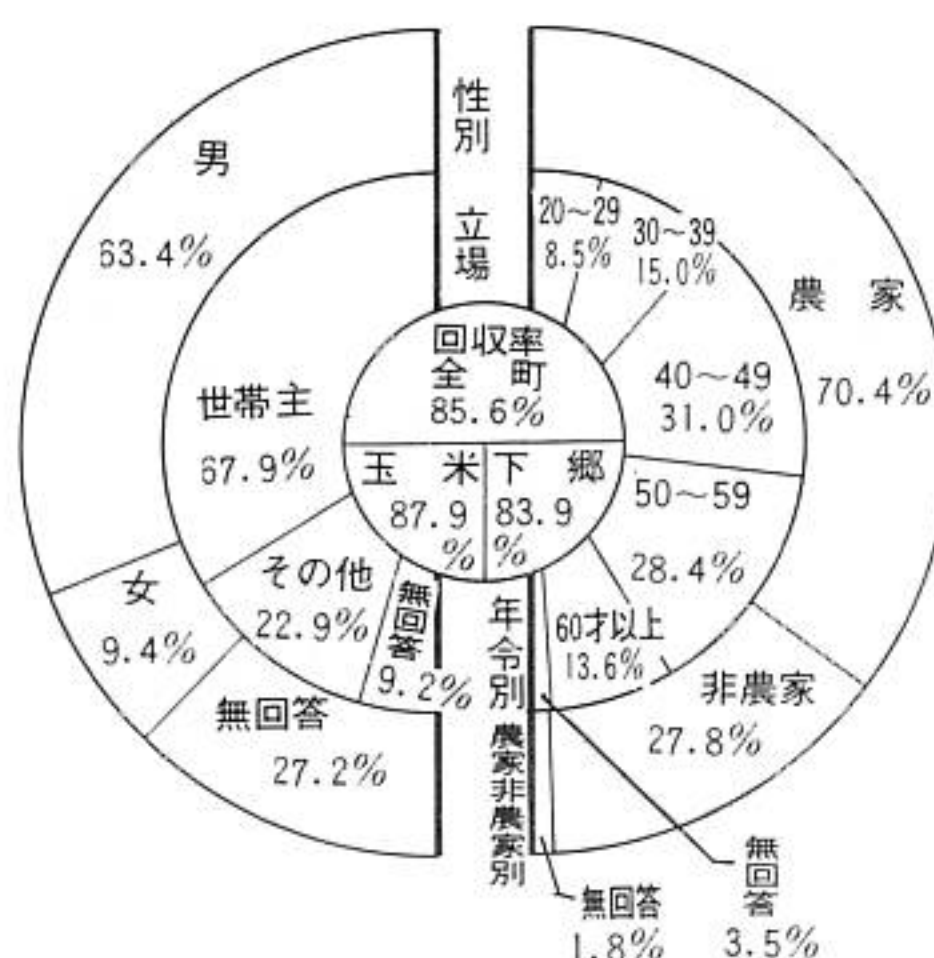
このような計画のもとに整備が進みますと、恵まれた自然環境の中で都市と極端な開きのない生活環境が確保され、住みよい農村ができあがってくるようになります。

また「モデル事業」は、農村総合整備計画のうちから、地域住民の熱意と理解のあるものを主として盛りこみ実施するものであり、来年度に実施計画書を作

成します。モデル事業計画は、農業生産基盤（農道、排水施設など）整備や農村環境基盤（集落道、集落排水、飲雑用水など）整備、農村環境施設（環境改善センター、農村公園など）整備をとりあげることができそうです。

計画にのりますと昭和五十五年年度から、およそ七年間において、総事業費十三億円程度で事業実施されます。このうち国が五〇％、県が二〇％の補助で、残り三〇％は大半が町で負担するようになります。この事業には起債が優先的に認められ、少ない町の財源で大きな事業が実施できるという利点があり有利です。

回収数 1,276人



85.6%の高い回答率

この調査は、町に住むみなさんがどのような問題をかかえ、将来の農村の姿をどのように考えているかを把握するため、町内の全世帯を対象に、五月二十七日から六月二日に実施しました。配布、回収には各部落長をお願いし、みなさんからご記入いただきました。

五・六%という高率をしました。回答いただいた調査票は、集落ごと項目ごとに集計し分析しました。

回答いただいたみなさんの立場、年齢、性別、農家・非農家別の結果は右の表のとおりです。

ご協力いただきましたみなさんに、厚くお礼申し上げます。

町づくり の方向は

農業の発展六三三%

生活環境では道路の整備

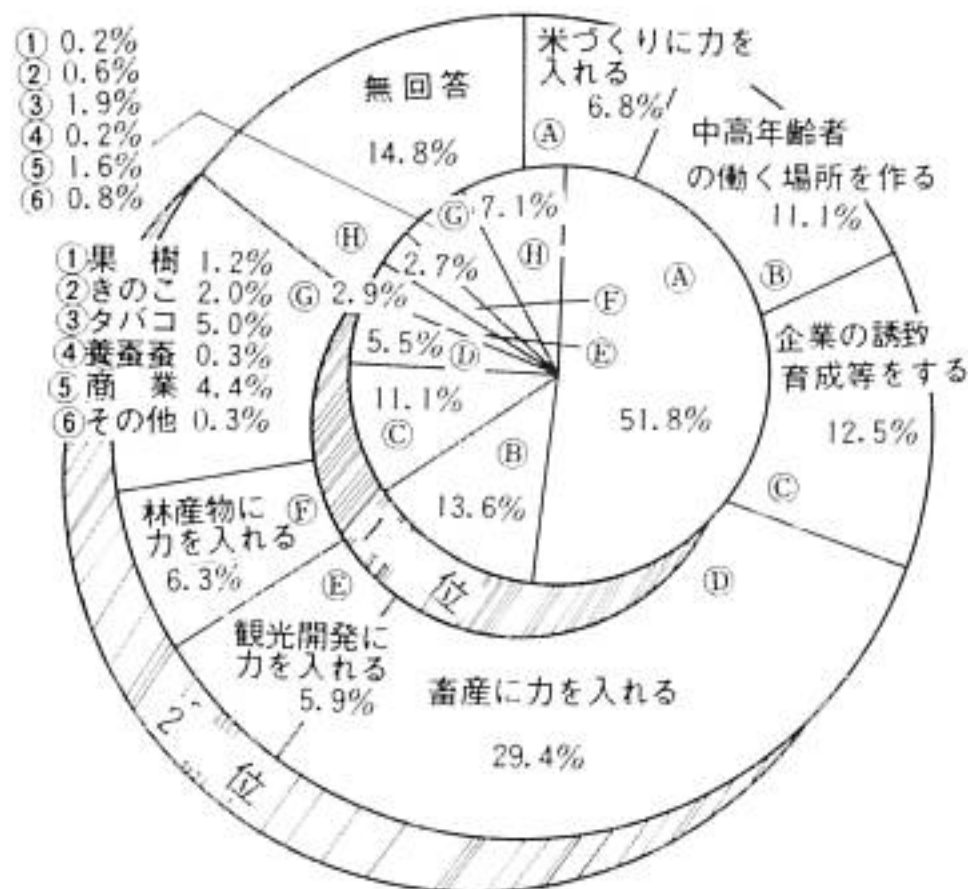
質問 あなたは、豊かで明るい町づくりのために今も必要だと考えられるものを、一位から三位まで○印を記入してください。(以下同じ)

産業振興で必要なことは

一位の回答では「米づくりに力を入れること」が五一・八%

畜産や果樹、タバコなどを含めて農業関係が六〇・二%を占め、二位では米につぐ主要作物として「畜産」の振興が二九・四%と、本町での産業振興の特徴を

産業振興の面で必要なことは



生活環境の面で必要なことは (1位のみ)

生活環境の面で必要なことは (1位のみ)	割合
米づくりに力を入れる	51.8%
畜産に力を入れる	29.4%
林産物に力を入れる	13.6%
観光開発に力を入れる	5.9%
果樹	1.2%
きのこ	2.0%
タバコ	5.0%
養蚕	0.3%
商業	4.4%
その他	0.3%
無回答	14.8%

路の整備」一〇・五%「冬期除雪の確保」七・六%となり、道路と衛生面への要望が強くなっています。その他は地域により問題点が異なっており、要望が多岐にわたっております。

義務教育で必要なことは

一位では「老朽校舎の改築」二一・八%「学校給食の充実」二〇・三%「学校の統廃合」一九・五%となっており、二位では「学校給食」への要望が強くなっております。

「通学区の再編成」と「学校の統廃合」は密接に結びついておりあわせて二六・六%、「老朽校舎の改築」「校舎の補修」「校舎の拡張」をあわせて二七・二%と前者と比較してみた場合ほぼ同数となっております。二位

二、三位も同じ傾向を示しますが、「医療機関、施設の充実」の要望が目立っています。これは地理的条件から、一日がかりでの診療が老人や婦人において現状への要望とされます。

では二六・六%と一七・九%で統廃合や通学区の再編に対する関心が高くなっています。今後の学校問題の方向づけが必要となっております。

出稼ぎはやむを得ない

質問 あなたは、出稼ぎをどう思いますか。

「出稼ぎはやむを得ない」が半数以上をしめ、その理由として「農業だけで生活できない」「農業だけで生活できない」が八三・七%となっております。

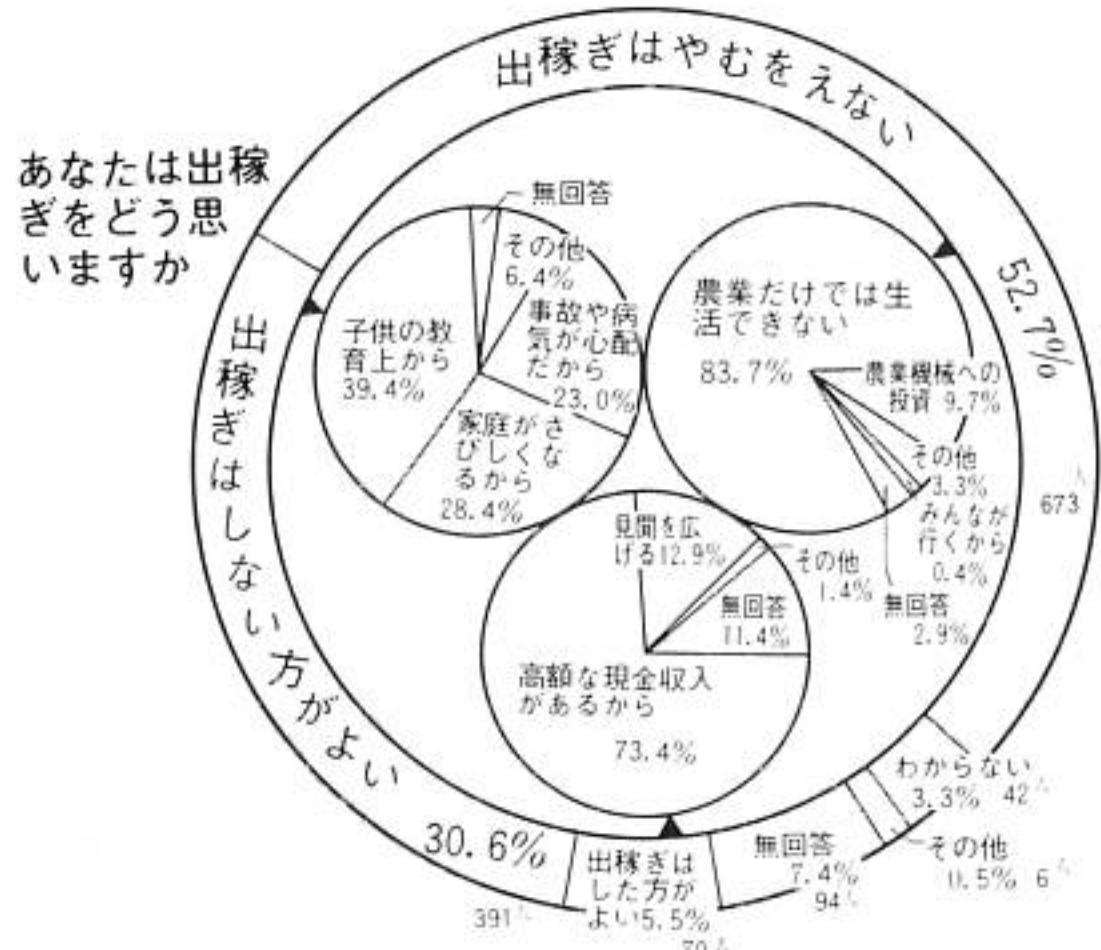
義務教育の面で必要なことは

	1位	2位	3位
老朽校舎の改築	21.8%	8.3%	7.4%
学校給食の充実	20.3%	17.4%	20.6%
学校の統廃合	19.5%	10.6%	7.4%
教育施設の充実	16.1%	15.7%	15.7%
通学区の再編成	14.6%	21.6%	26.3%
校舎の補修	10.4%	16.0%	10.6%
校舎の拡張	7.1%	6.7%	6.7%
その他	4.0%	2.9%	4.4%
無回答	1.4%	0.4%	0.9%

考えますか。

方がよい」という意見は五・五%と少ないですが、その大半は「高額の現金収入がある」ことをあげております。

「誘致すべきだ」が約八〇%を占め、男子型工場の誘致を希望しております。農村の環境と合致した農産加工場や無公害の工場を望んでおります。



あなたは町に企業（工場）を誘致することについてどう思いますか

誘致することについて	割合
大いに誘致すべきだ	31.7%
公害のない企業を誘致すべきだ	48.2%
無回答	11.8%

質問 あなたは今住んでいる所（部落）に長く住みたいと思いますか。

「長く住みたい」という積極姿勢の回答は六四・四%を占め「長く住みたくないがどうしようもない」という消極姿勢の回答は一九・三%となっています。あわせて八三・七%は、現時点で「住む」と答えています。その理由は、「住めば都だから」「生活環境がよい」「生活が安定している」「先祖代々の土地だから」などと、農村の恵まれた自然環境をあげています。

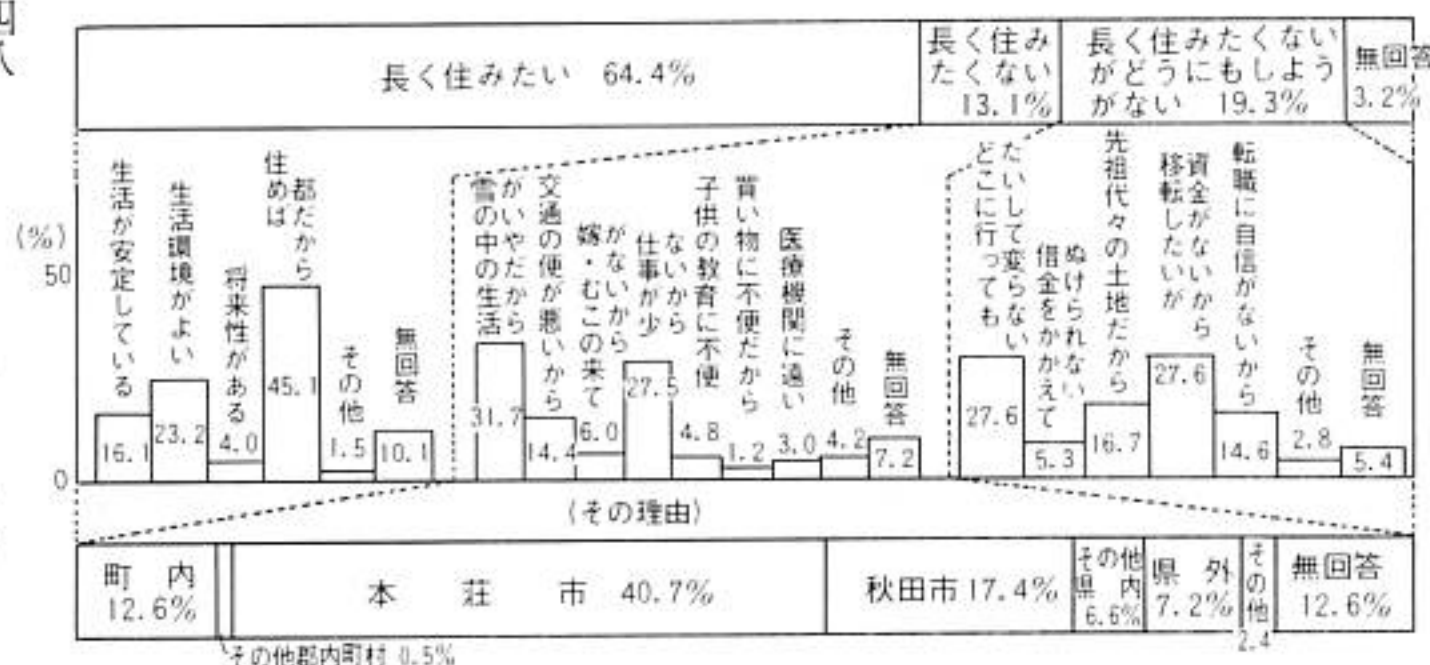
一方「長く住みたくない」は一三・一%をしめ、その理由として「雪の中の生活がいやだ」が三一・七%となっています。

つぎに「仕事が少ない」が国道沿いの集落に多く、「交通の便が悪い」という回答が役場から

離れている集落に多くなつています。「長く住みたくない」とする一六七戸のうち「住みたい所」は、「町内一二・六%のほか、本莊市を始めとした県内の一〇九戸、六五・三%（全戸数比七・三%）が希望しています。

しかし、別荘間の「住宅と宅地」の関連で考えた場合、「宅地を町外に持っている」一九戸「町外に宅地を戸とあわせて六四・五%」の動

あなたは今住んでいる所（部落）に長く住みたいと思いますか



必要があります。またそれは、環境整備の遅れを指摘しているのではないのでしょうか。

質問 あなたが住んでいる集落には、生活環境施設としてどのようなものがほしいと思いますか。

「交通安全道路」や「交通安全施設」の交通上危険のともなう環境の改善を三七・八%が強く望んでおります。また遊び場や広場などの要望も強く一七・四%、集会所や共同作業場などの集会施設の希望が一三・六%となっており、水道末設置集落では簡易水道設置の要望が

質問 お宅のまわりでふだん困っていることや不満がありませんか。

「道路が悪い」ことへの不満が一七・六%をしめ、広範な面積の中に張りめぐらされている道路網整備（特に集落内道路）の遅れをしめしております。わが町の場合集落が散在しており、道路延長が約二百九十二キロと非常に長いため改良舗装率が伸びず、要望が高くなったものと思います。また除雪や騒音振動交通事故などへの不満が二五・五%をしめています。

このほか生産と生活の場が一諸になつてゐる農家の特性と、畜産の盛んな本町の現状から、「カ、ハエが多くて困る」という不満もあげられ、また「飲み水に不便している」という点もあげられています。その中で、

「道路が悪い」は玉米地区が下郷地区より七%ほどおおく、「騒音振動がひどい」のは、下郷地区が逆に七%ほどおおくなっています。

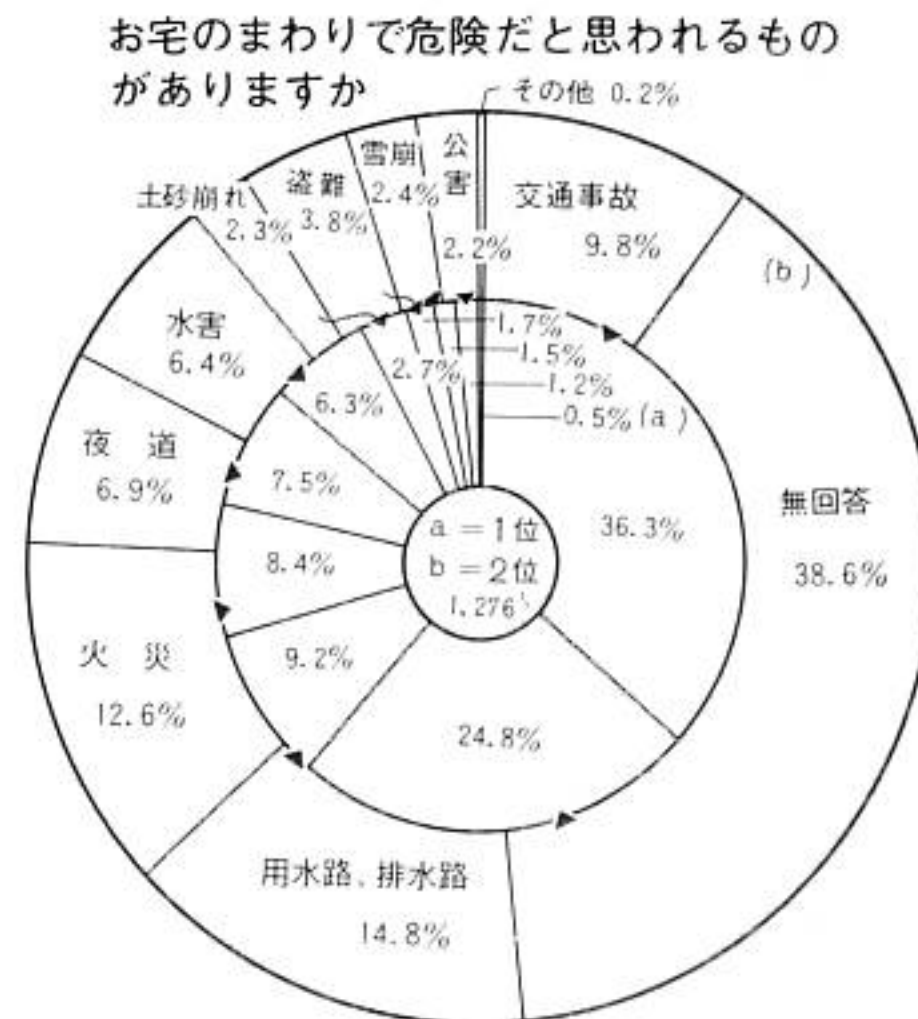
二、三位では「除雪が足りない」と「子供の遊び場がない」「交通事故の危険が多い」などに集中しております。

選択された項目が同じような比率を示していることは、それぞれ地域的に問題が異なっていることと、町民の要望が多岐にわたっていることではないでしょうか。

質問 お宅のまわりで危険だと思われるものがありますか。

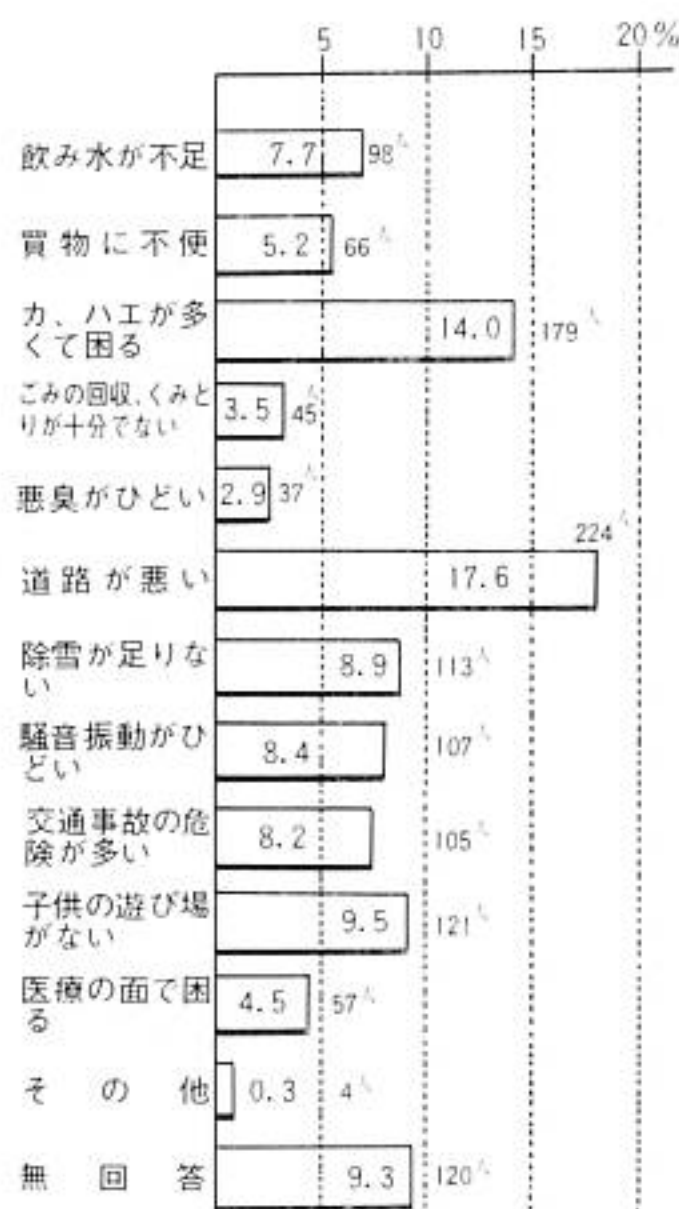
危険な項目	割合 (%)
交通事故	9.8%
盗難	3.8%
土砂崩れ	2.3%
雪崩	2.4%
公害	2.2%
その他	0.2%

「交通事故」の危険が一位と車社会の世相を映しだしておりそのほか「用水路、排水路」の危険も目立ちます。これは子供の保育上の危険にもよるもので防護柵の取り付け等による解決

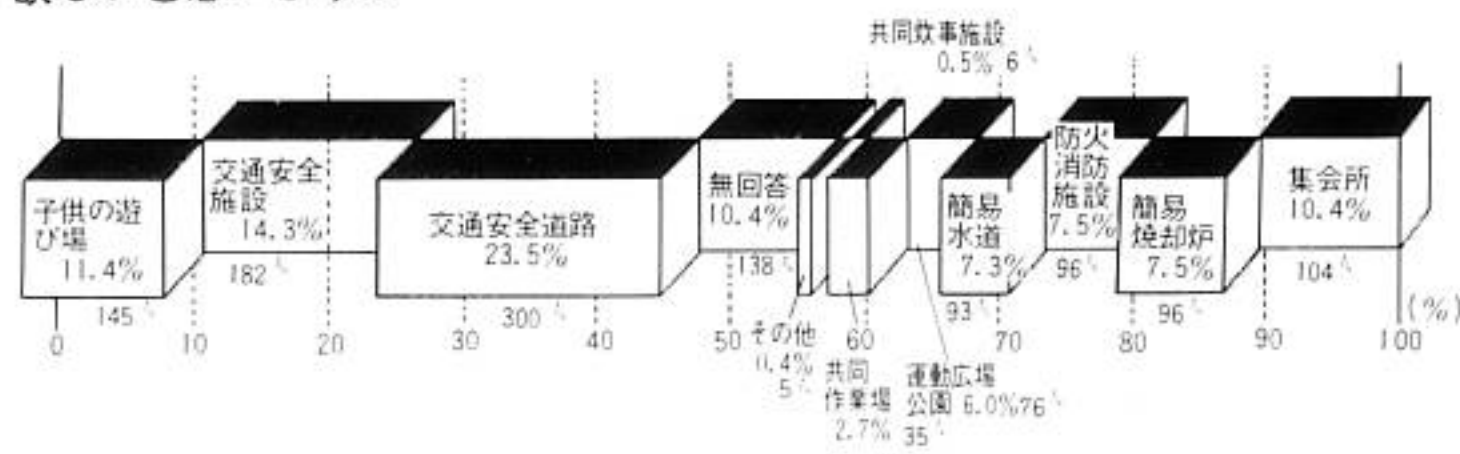


が必要。また「水害」や「大火」「夜道」の危険などあげられ防火施設や防犯灯の整備が望まれています。

お宅のまわりでふだん困っていることや不満がありますか



あなたが住んでいる集落には、生活環境施設として、どのようなものが欲しいと思いますか



「自家処理している」が四八・一%をしめ「業者に汲みとり依頼をしている」が三二・三%となつています。農家が多い現状から自家処理が多く、汲みとり依頼は国道沿いの集落がおおくなっています。

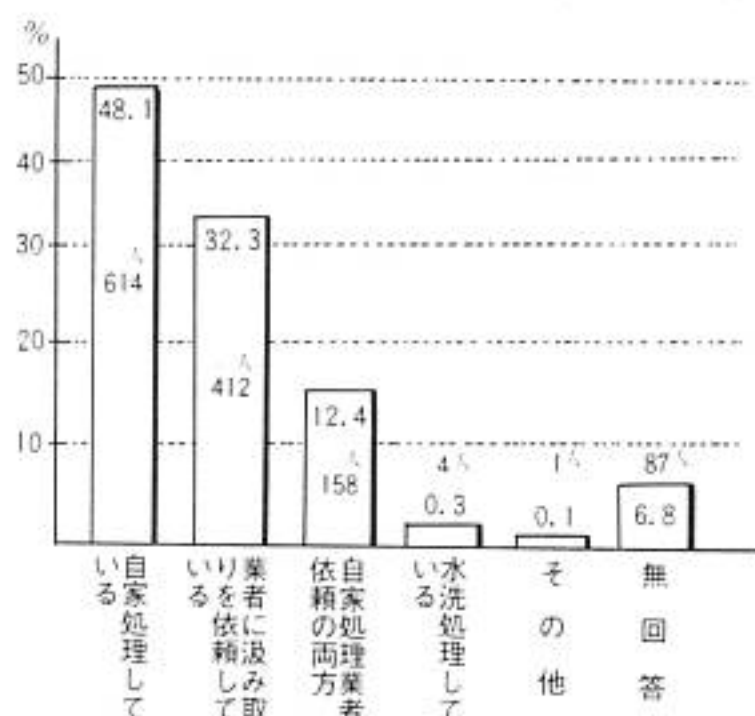
水洗処理の家庭は、わずか四戸で〇・三%にすぎず、わが町の下処理施設整備の遅れが目立っています。

質問 お宅でのし尿処理についてお伺いします。

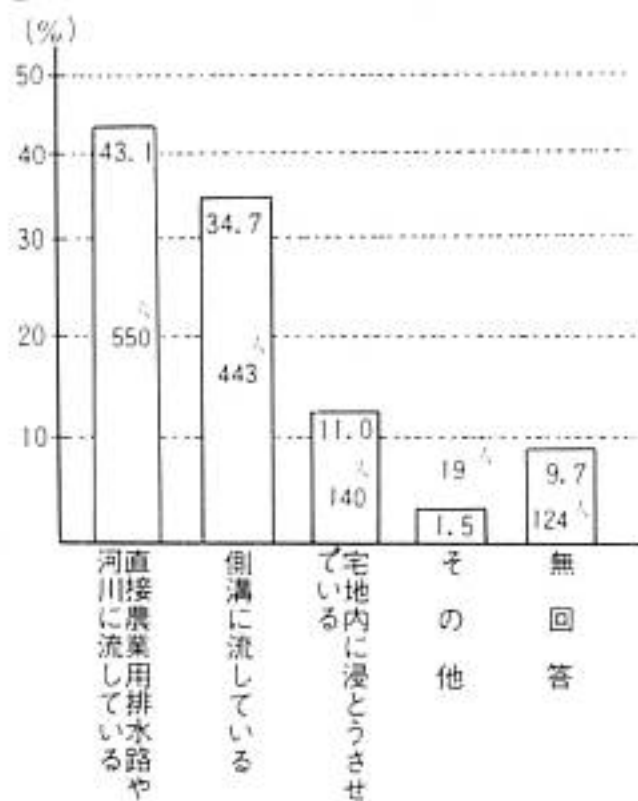
質問 家庭排水についてお伺いします。

家庭排水を「宅内に浸とうさせている」の一%をのぞき、七七・八%が農業用排水路や側溝に流しており、家庭排水の処理に苦慮していることがうかがわれます。

お宅でのし尿処理についてお伺いします



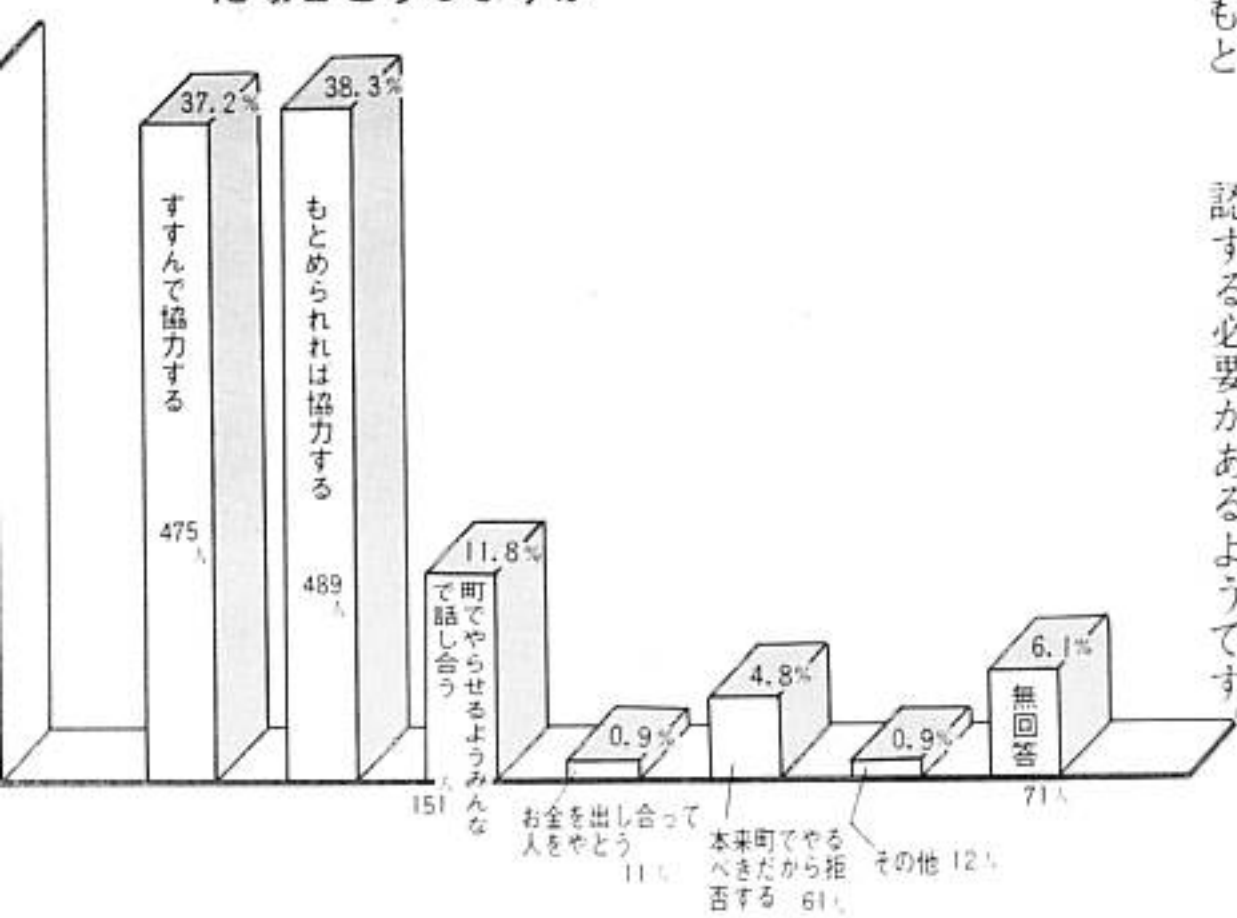
お宅の家庭排水についてお伺いします



(運動広場の整備も進む…横渡ランド)



お宅では労力奉仕のような形で協力を求められた場合どうしますか

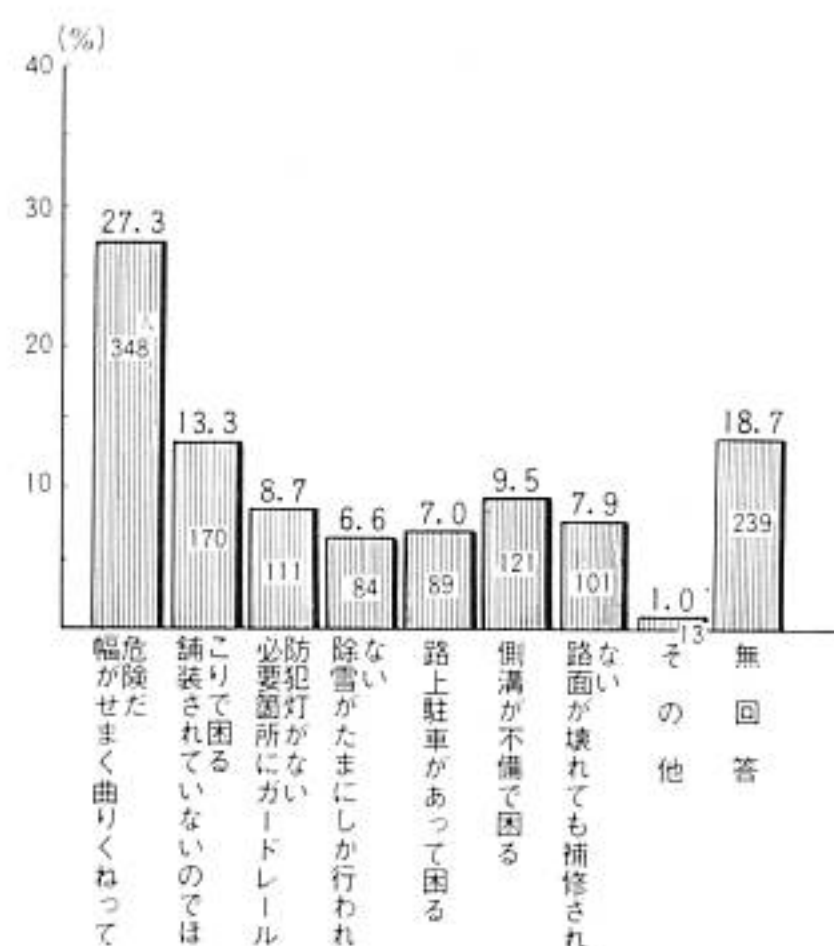


下水処理の施設を早く

農村公園が欲しい七一%

質問 あなたの集落内の道路についてふだん思っていることを記入してください。

あなたの集落内の道路について、ふだん思っていることを記入してください



「舗装」の要求とあわせて四〇・六%となり集落内道路の改良要望が強くなつています。また、ガードレールや防犯灯などの安全施設の改善を望んでいます。

質問 農村には、いこいの場所が少ないといわれていますが公園のようなものは必要とされていますか。

「三年後に必要」と回答したのをあわせると七三・二%となり近いうちに改善の必要を要望しています。

一方「思わない」一二・七%のうち、三五・八%は「お金がかかるので必要ない」という意見をよせています。

農村公園のような憩いの場所を、必要とする人が全町的に多くほかに圧倒しています。

範囲は部落ごとに一カ所、三〜四部落ごとに一カ所、を望む人達があわせて五九%となり、キメ細かに何ヶ所にも設置して欲しいという願いがあらわれています。

質問 お宅では、労力奉仕のような形で協力を求められた場合どうしますか。

「すすんで協力する」「もとめられれば協力する」をあわせて七五・五%となつており、町民の協力姿勢がうかがわれます。しかし、「町でやらせるようにみんなで話し合う」「本来町でやるべきだから拒否する」という意見が一六・六%となり、行政への依存の傾向も根強く、内容によっては考慮し、目らものは自らの手で行う姿勢を、確認する必要があるようです。

質問 あなたの集落内の道路についてふだん思っていることを記入してください

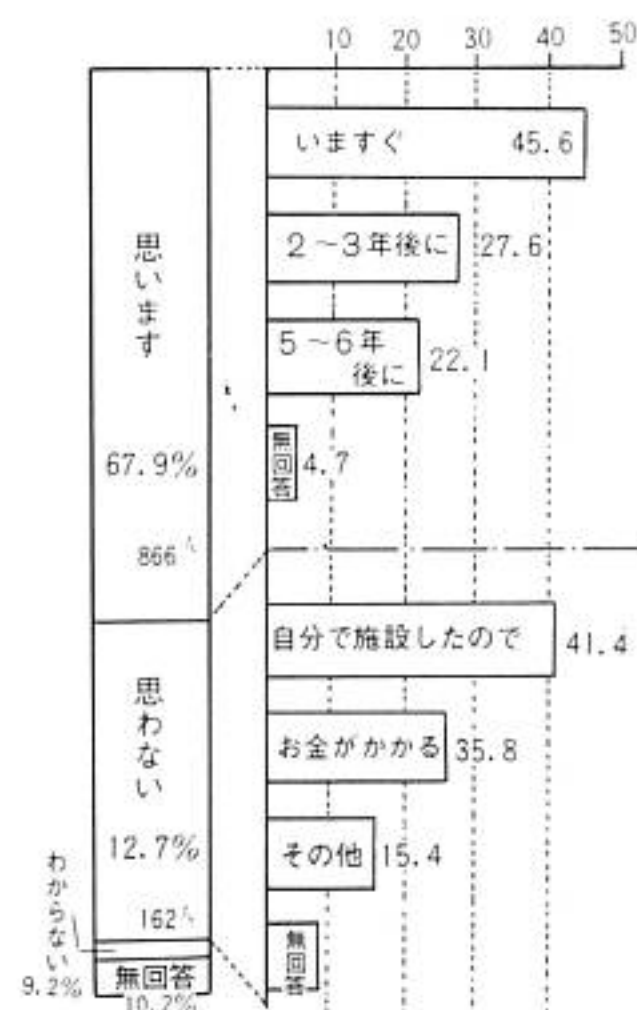
「三年後に必要」と回答したのをあわせると七三・二%となり近いうちに改善の必要を要望しています。

一方「思わない」一二・七%のうち、三五・八%は「お金がかかるので必要ない」という意見をよせています。

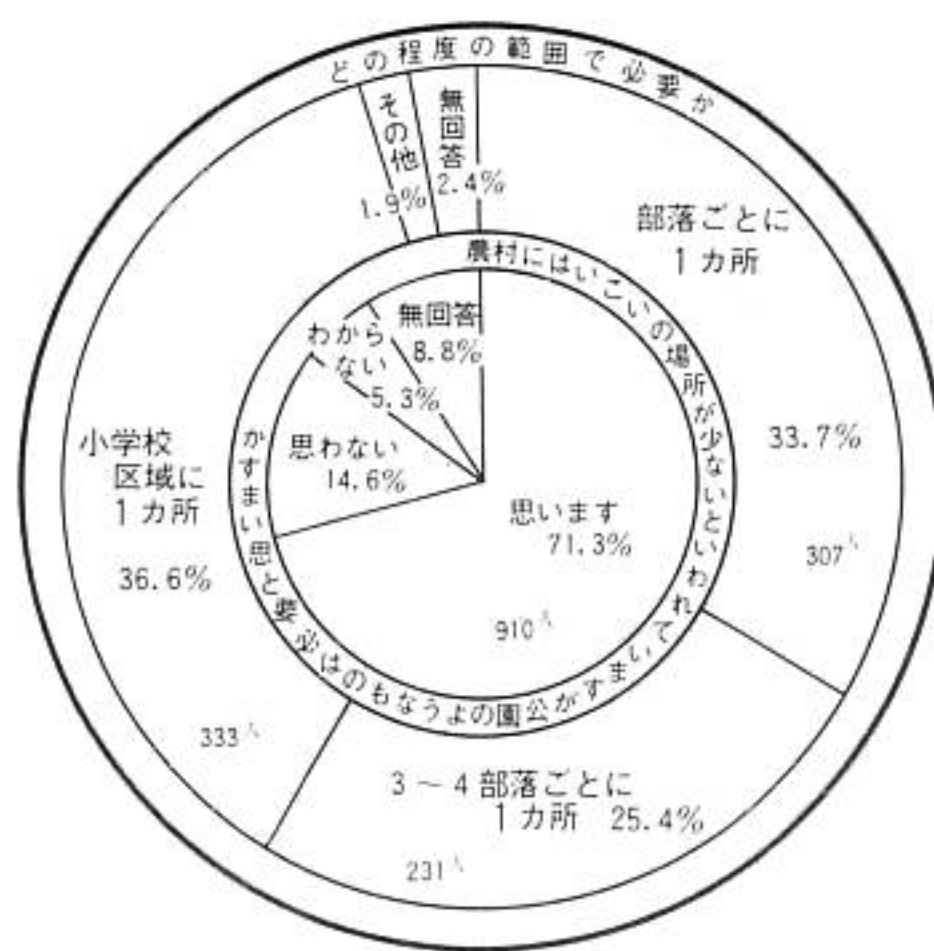
質問 あなたは生活排水やし尿などの排水施設が必要だと思いますか。

「思います」が六七・九%と、だんぜん多く、そのうち「今すぐ必要だ」は四五・六%と、町部周辺に多くなつていきます。

あなたは生活排水やし尿などの排水施設が必要だと思いますか



農村には憩いの場所が少ないといわれていますが公園のようなものは、必要とされていますか



農業で自立する五〇%

子どもはどうかかわからない

農家のかたのみに記入してもらいました

質問 農業を将来とも続けるかどうかについて、あなたのお考えに最も近いものを、ひとつだけあげてください。

「農業は、今後食糧供給のうえで重要視されてくるから、積極的に続ける」一七・五%、「農業は良い職業とは思わないが、他産業より安定しているので続ける」二六・三%、「先祖代々続けているのだから、将来とも続けていく」六・六%と、将来とも農業を続けてゆくと答えた人があわせて五〇・四%、四五二人となり、農家の約半数が農業で自立していこうとする意欲を示しております。これを地区別の農家比較で見ますと、下郷地区が四八・八%、二四六六人、玉米地区が五二・三%、二〇六人となっております。

また「今後一層兼業化が進むであろうから、兼業を主とし農業を片手間で行っていく」という第二種兼業農家への志向が、二四・七%あります。

一方「農業も企業だから割がよければ続けるし、悪くなればやめる」とする回答も三八人から寄せられ、「農業は自分一代

でたくさんだ、子供は自分で決めればよい」という意見も一人、二・三%あり注目されます。農業をとりまく情勢の厳しさから、農家の苦悩をうかがわせます。

質問 農業後継者について

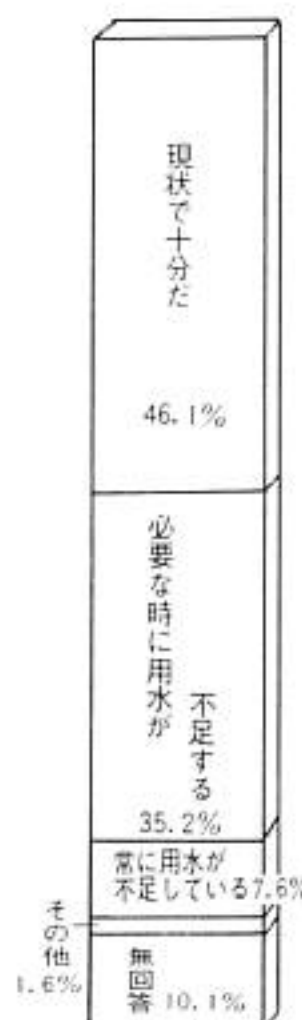
「心配ない」と回答したのが

二六三人、二九・三%でありましたが、「子供が農業をつぐかどうかかわからない」と将来への不安をしめしているのが四六%、四一三人と半数近くを占めています。また、「適当な配偶者がみつからないかもしれない」という回答が八四人から寄せられており、若者の絶対数の不足が一因となっている、本町の後継者不足の実情を浮きぼりにしています。

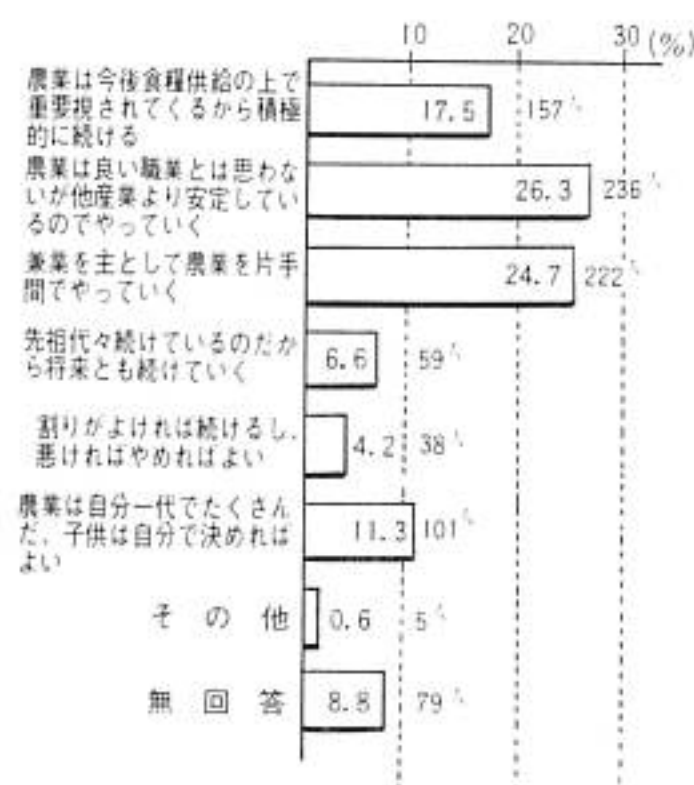
質問 農業用水について

「現状で十分だ」とする人は、四六・一%と半数近くを占めています。しかし、「必要な時に用水が不足する」も三五・二%を占め、かんがい時の水不足が

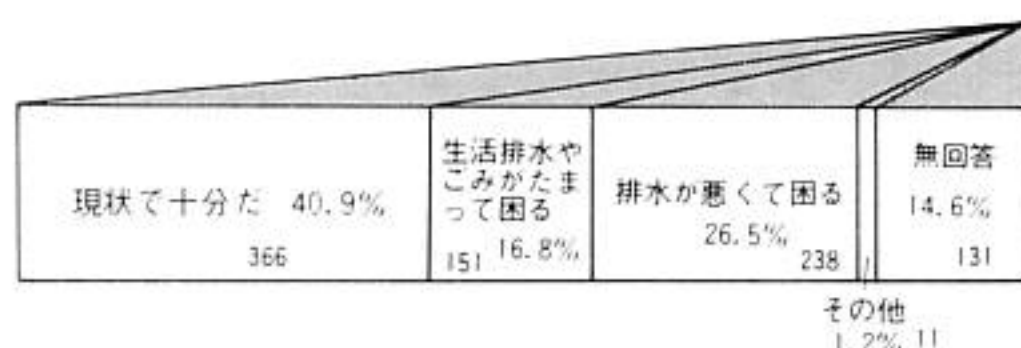
農業用水について



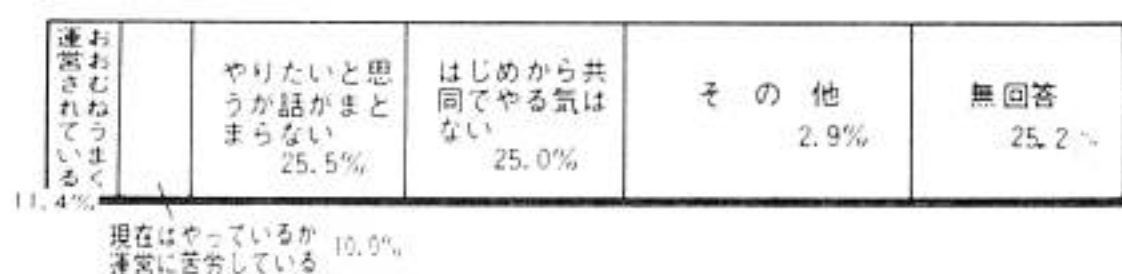
農業を将来とも続けるかどうかについてあなたの考えに最も近いものをひとつだけあげてください



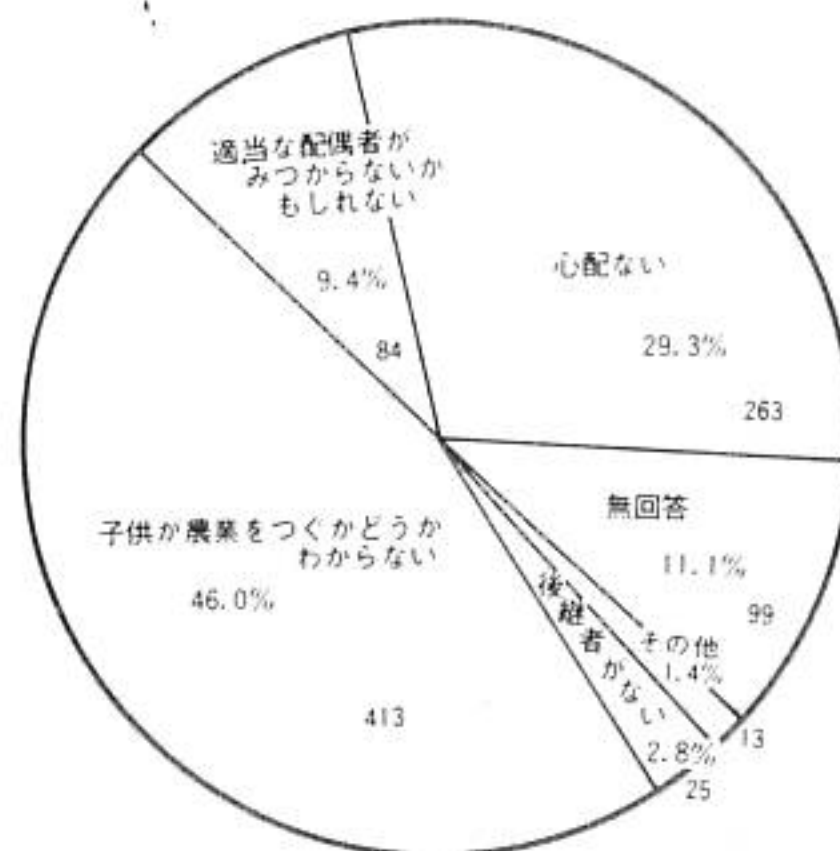
農業排水について一つだけあげてください



共同作業、共同経営について一つだけあげてください



農業後継者について一つだけあげてください



質問 農業排水について

「現状で十分」が四〇・九%となっており、戸数密集

質問 共同作業、共同経営について

地からは「生活排水やごみがたまると困る」という意見が一六・八%からよせられています。



(建設中のライスセンター)

「やりたいと思うが話がまとまらない」「現在やっているが運営に苦労している」「おおむねうまく運営されている」と現在行っている人、また、これから行いたいと思っている人が、四六・九%をしめています。

集落農場化事業や機械の協業化などにより、過剰な設備投資を防ぎ、ゆとりのある農家経営の確立が必要となっています。

(みなさんにお願ひしました全項目について、ぜんぶをのせることができませんでした。回答をよせられた主なことについてみると、集落ごとに問題が異なり、地域的な考えがあらわれているように思います。町では、この調査にあらわれ、みなさんのお考えをもとにしまして、町議会やその他の団体のご意見を集約して、計画を立てますので、積極的なご参加をお願いします。)